

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1) 各学科・教科の編成するカリキュラムや実習・課題研究の取組について、90%以上の生徒が満足している。	○生徒の実態と進路選択に合致したカリキュラムの編成や、幅広い選択科目を設定する。	/	B	B	カリキュラムや学校生活において、生徒は概ね満足しており、資格取得においても大多数の生徒が積極的に取り組み、1つ以上の資格を有しているという結果であった。来年度も継続して資格取得指導等に取り組み、カリキュラムや学校生活における生徒の満足度をさらに上げていくことが必要である。	学習成果発表会においては、生徒がやるうとする課題が以前とは変わってきていることが見てとれた。失敗してもやり直す経験を積むことで、生徒が達成感を味わえていると感じられる。発表において起承転結をより明確にすることにより、なぜその課題を設定したのかがわかるような発表になるとよりよいと感じた。		
		2) 学校生活が充実していると感じている生徒の割合は、90%以上である。	○課題研究や実習・実習において、各学科の特徴を活かすために各種競技会等に参加し、学習成果発表会を実施する。	/	B	B				
	2 資格取得や検定試験に向けた適切な指導を行っていますか。	3) 生徒が資格取得等に積極的に取り組み、1回以上検定試験を受験している。	○学科間を横断する指導体制を整え、効率良い指導を行う。 ○生徒の進路選択に対応した資格について指導・助言する。	/	A	A				
		4) 生徒の取り組んだ結果として、90%以上の生徒が1つ以上の資格を有している。	○学科間を横断する指導体制を整え、効率良い指導を行う。 ○生徒の進路選択に対応した資格について指導・助言する。	/	A	A				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	5) 生徒の実態を把握するための振り返りやアンケート等を授業で行っている教員が80%以上である。	○生徒の理解度や実態に即した指導を行う。 ○授業アンケートや振り返りシート等を活用し、生徒の実態把握に努め、指導内容の改善に生かす。	D	C	D	生徒の実態把握のための取り組みでは、自己評価と外部アンケートとの間で認識の差が見られ、その結果が基礎学力向上における生徒の達成感や満足感に影響しているのではないかと考えられる。それに対し、仲間と協力し合って活動することに関しては、自己評価、外部アンケートともに高い達成度であった。来年度は、生徒の基礎学力を向上させる取り組みを重点的に行っていくことが必要である。	生徒同士のコミュニケーションが普段からよく取れている様子が見て取れるので、やりがいを持ってもらえるような指導をしてほしい。		
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	6) 専門教科と普通教科をバランスよく学び、基礎学力を向上させることで80%以上の生徒が学習に対し達成感や満足感を持っている。	○職員研修を実施し、職員の資質向上に努めるとともに、新学習指導要領に即した授業や教材内容等を精選する。 ○全職員対象の授業参観・教員相互の公開研究授業を実施する。	/	C	C				
	5 生徒の学び合いの充実重点を置いた指導を行っていますか。	7) 自分の考えや意見を相手に伝えるときに、相手の意見に耳を傾け、仲間と協力し合って活動することができる生徒が80%以上である。	○生徒の自主性を尊重し、生徒同士で話し合いが進められるよう指導・助言を行う。 ○3年生全員が学習成果発表会で各々の研究発表を行う。	A	A	A				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	8) 職員会議や学年会議・科会議等において、生徒に関する情報交換を月3回以上行っている。	○定例の職員会議や学年会議・科会議等で情報を交換し共有する。	B	/	B	生徒に関する情報交換や挨拶、気になる事例への対応に関しては、高い達成度となった。しかし、いじめ防止基本方針の生徒、保護者の理解度が低く、周知の仕方の改善が必要であると感じた。また、生徒が部活動に意欲的に活動しているかについて、自己評価と外部アンケートの間に大きな差が生じてしまった。この結果は大きく受け止め、部活動指導において、トップダウンの指導にならないよう、いかに生徒との対話を重視していくかなど、大幅な指導の改善が必要である。交通事故の割合も前年度からの改善は見られず、この項目に関してもさらなる指導の改善が必要である。	自転車のマナーについては、ヘルメットをかごに乗せて走っている生徒や並列走行をしている生徒を見かけることがある。自転車は加害者になることもあるので、注意して指導してほしい。生徒が安全に過ごせる学校にしていきたい。		
		7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	9) 職員や来校者に積極的に挨拶ができる生徒が90%以上である。	○全職員で協力し、校門前指導を行う。 ○職員が継続的に授業や廊下等で声かけ等を行い、生徒自ら挨拶できるよう働きかける。	B	A			B	
			10) 生活アンケートから、気になる事例が発見された際、対応を始めるまでの期間が3授業日以内である。	○教育相談会議などで、情報交換を図る。 ○スクールカウンセラーの活用を生徒・保護者・職員に周知する。 ○学期ごとに生活アンケートを実施する。 ○1か・1かに行き「こころの教育事業（講演会）」を各学年に実施し、良好な人間関係作りを促す。	A	/			A	
			11) いじめへの早期対応に努め、事例の把握から対応し始めるまでが2授業日以内である。	○発生時の事実確認を組織的に行う。 ○該当者の人間関係を踏まえ、担任・副担任・学年主任だけでなく、各科主任・部活動顧問・教育相談係等も担当として組織する。	A	/			A	
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	13) 部活動に加入している生徒のうちの80%以上が、意欲的に活動している。	12) 「いじめ防止基本方針」について、80%以上の生徒、保護者が理解している。	○「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に向けた取組を計画的に行う。	/	D			D	
			14) 生徒の安全な登下校のために、交通指導を定期的に行い、交通事故の割合が前年以下になっている。	○全職員を部活動に配置し、互いに協力して積極的に指導する。 ○自転車マナー指導、ヘルメット着用指導を定期的に全職員で協力して実施する。	A	D			D	
		9 計画的な指導を行っていますか。	15) 進路関係の行事やガイダンスを各学年とも年5回以上ずつ実施する。	13) 部活動に加入している生徒のうちの80%以上が、意欲的に活動している。	○生徒の成長や進路意識に応じたガイダンスや講話などを計画的に実施する。	B			/	B
				14) 生徒の安全な登下校のために、交通指導を定期的に行い、交通事故の割合が前年以下になっている。	○OPTA・同窓会の協力による模擬面接会を実施する。 ○希望する企業や進学先について生徒が自ら研究できるよう指導・助言をする。	A			B	B
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	16) 自分の進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が80%以上である。	○OPTA・同窓会の協力による模擬面接会を実施する。 ○希望する企業や進学先について生徒が自ら研究できるよう指導・助言をする。	A	B	B				
		11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	17) PTAの諸行事に、50%以上の保護者が参加している。	○PTAの諸行事は、感染対策を徹底し、分散開催にて実施する。	/	A	A			
			18) 地域と関わり合いのあるボランティア活動を年5回以上行っている。	○各部活動や委員会等で、地区の行事に参加・協力をする。	A	/	A			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	19) HPでの情報発信を月5回以上行っている。	○HPを頻りに更新し、学校の情報を発信する。	B	/	B				
		VI 教育デジタル化に努めていますか。	20) ICT機器を用いた授業等の取り組みについて、80%以上の生徒が満足している。	○ICT機器を用いて、生徒の活用能力の把握に努め、新学習指導要領に即した授業等における課題配信や採点など活用方法の改善を進める。	/	A	A			
13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	21) ICT機器を活用して、アンケート集計などの業務を学期ごとに3回以上行っている。		○ICT機器を用いて、各種アンケートや学習状況調査等を実施する。	D	/	D				